

# 悠優みふね事業所 ってこんなところ。

2024年3月にオープンしたこちらの施設。今回はいくつかあるサービスの中から「住宅型有料老人ホーム」と「訪問看護ステーションナーシングPlus悠優」にフォーカスし、気になる取り組み内容についてお話を伺いました。



私が  
答えます!

悠優みふね  
住宅型有料老人ホーム  
介護リーダー

もりうち じゅんこ  
森内 淳子さん

## 業務内容

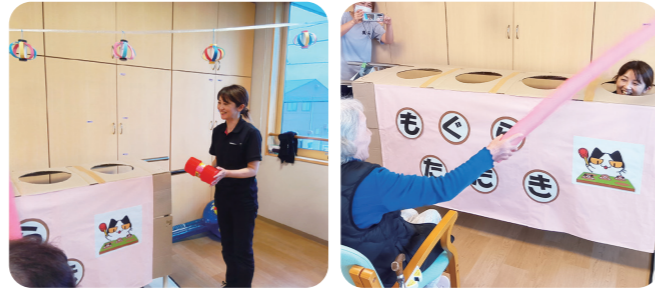
### 訪問ヘルパーとして日常生活のお手伝いを

看護師2名と介護スタッフ9名で、30名の利用者様の生活支援を行っています。一般的な訪問介護との違いは、訪問先が個々のご自宅ではなく悠優みふねの住宅型有料老人ホームであるという点です。入浴や排泄の介助、口腔ケアなど、一人ひとりに合わせた適切なサービスをご提供し、少しでも楽しく過ごしていただけるよう毎月様々な行事を企画しています。

### 住宅型有料老人ホームの魅力

#### 生活面でも精神面でも 安心してお過ごしいただける環境

ご自宅のように生活しながら、必要なケアやサポートが常に受けられるところです。また、悠優みふねは近隣地域の皆さんに多くご利用いただいていることもあり、入居してみるとお知り合いがいたというケースも少なくありません。初めはご自宅を離れることに抵抗のあった利用者様も、スムーズに馴染んでいかれたように感じます。このように、利用者様はもちろん、ご家族様にも安心してお任せいただける環境が整っているところが魅力です。



### 「ここで働いて良かった」と感じる瞬間

#### 優しいお心遣いが日々の励みに

利用者様から温かいお言葉をかけていただく瞬間です。休み明けに「今日は来てくれたんだね」と気付いて声をかけてくださったり、「いつも忙しそうだね」「何か手伝おうか?」と気遣ってくださったり。そして何より、日々関係性を築いていく中で「ここに来て本当に良かった」と言ってもらえることが一番のやりがいに繋がっています。

### 仕事をする上で心がけていること

笑顔忘れず寄り添ったケアを行い、日々の「気付き」を大切にすることです。また、常に利用者様の行動を予測し、事故や怪我等のリスクをできる限り回避できるよう意識してきました。「大丈夫だろう」ではなく、「危険かもしれない」という視点を大切にしています。

#### 今後の目標 & 皆さんへのメッセージ

オープンから約7か月が経ち、改善点や課題もたくさん見えてきました。強みのチームワークを活かし、みんなで話し合っ解決していけたらと考えています。利用者様の笑顔のために、一丸となって頑張っていましょ! ちなみに、男性職員を絶賛募集中です! (笑)



私が  
答えます!

訪問看護ステーション  
ナーシングPlus悠優  
作業療法士

しらすき みき  
白崎 美樹さん

## 業務内容

### 自宅や施設を訪問して利用者様のケアを行う

利用者様の自宅や施設を訪問し、看護師は体調や薬の管理・点滴・褥瘡の処置・床ずれのケア。作業療法士は日常生活の工夫を支援し、運動の練習も行います。また、看取りの方のサポートも。

自宅にいる方は一人暮らしや高齢のご夫婦がほとんど。認知症の方も数多く、1人で生活するには様々な困難があるため、お手伝いを行っています。

### ナーシングPlus悠優の魅力

看護師6名、作業療法士2名の合計8名。ベテランから子育て世代まで、多様な価値観をもつメンバーで構成されています。様々な意見を聞くことができ、とても勉強になります。

### 働いて良かったと 感じたエピソード

#### ふとしたときの利用者様の笑顔

春に桜の木の下で歩行練習を行い、運動を通じて喜ぶ利用者様の表情を見ると、やりがいを感じます。また、訪問の際には他のスタッフが行った支援についての話を聞くことができ、職員が様々なお手伝いを行えているのを知って嬉しくなります。

#### 今後の目標 & 皆さんへのメッセージ

週に1~2回の訪問で利用者様の変化や状態の維持を感じられることが作業療法士の醍醐味です。地域の皆さんが笑顔で過ごせるよう、一人ひとりと丁寧に向き合っています。また、今後利用者様の希望が増えることを見込み、一緒に働いてくれる人材が増えたらと思います!



#### 起立練習

難病の方が家に帰るために、立つ練習で体力をつけています。



## 普段の業務に対する思い

### 支援を受ける目的を明確にして 役割を与えたい

「利用者様の笑顔を引き出すこと」をモットーに「自信を取り戻していただくためにサポートをすること」が目標です。運動が不得意で体力が衰えていた90代前半の男性が、子ども相撲大会の開催を知り近所の神社まで出かけたそうです。情報収集を行い自ら歩き始めたことは、努力の証。重要なのは、それぞれの利用者様の役割や思いを理解し、なぜ支援を受けるのかという目的を明確にすることです。そのためにしっかりとリサーチし、個々に寄り添うことが大切だと感じました。

#### 座っている方

乗移りの練習の前準備をしているところです。





大切に  
している

# 仕事のこだわり ～ご利用者様との接し方～

障がい者施設での20年以上の経験を活かし、悠優かしまで活躍中の宮地さん!優しいお人柄でご利用者様からも大人気ようです。そんな宮地さんの仕事術には、ご利用者様とのコミュニケーションに悩んでいる方は、解決のヒントが隠されているかもしれません!少しの工夫の積み重ねが、大きな信頼を勝ち得るポイント。できることから真似してみたいはいかがでしょうか。



特別養護老人ホーム 悠優かしま みやじ なるみ  
宮地 生美さん

## 現在の業務内容

### ご利用者様の身の回りのお世話

ケアワーカーとしてお食事やお風呂、排泄などのお手伝いをさせていただいております。1ユニットを担当しており、入社してから約半年経過しました。ご利用者様から顔を覚えていただけるようになり、毎日楽しく業務に励んでおります。



## 職員の皆さんへ

### 自分の仕事の尊さを感じ、 ご利用者様と全力で向き合い続ける

私は普段から、ご利用者様の生活の一部となり、人生に関わらせていただいていることを忘れず、毎日大切に仕事に励んでいます。正解がなく、大変なこともあります。たくさんの喜びをご利用者様に感じていただける介護と一緒に目指していきましょう。

## ご利用者様と接するときに工夫していること

### ①自分だったらどう感じるかを 常に忘れない

お話をする際には、ご利用者様の目線に合わせてるようにしています。介護をする上で「お相手の立場になって考える」ということは大事にしているポイント。私だったら、上から話しかけられると威圧感を受けてしまい、好感をもつことはないでしょう。そのため、座っている方には膝を床につけて、ベッドで寝ている方には腰をかかめて目を見てお話をしています。

### ②どうしたら伝わりやすいかを 模索し続けアップデート

ご理解いただきやすい言葉選びも意識しています。例えば、移乗にご協力いただきたいときには、「お尻をこちらに乗せてくださいね」など具体的にお伝えし、それでも伝わらない場合は、違う言葉を使ってお願いする。そうすることで、少しずつお一人ごとの理解していただきやすい伝え方がわかってきて、コミュニケーションがスムーズになります!

### ③諦めないコミュニケーション

認知症の方には自分のことを覚えていただけなかったり、以前お話ししたことを忘れられてしまったりすることもたくさんあります。「忘れられちゃうからもう良いや」と思うのではなく、何度も繰り返しコミュニケーションを取ることが重要です。そうすることで、「なんとなく会ったことがある気がする」、「そういえば、この間も聞いた気がする」など、少しずつ記憶に残る存在になれることがあります。そんなときこそ私は、自分の仕事にやりがいと喜びを感じます。



## 千寿会が繋ぐ

# 未来の介護

今回は、今の介護が抱える課題や、それに対する改善点について介護職員にお聞きしました。現場で働く職員は共感する部分もあることでしょう。ぜひこの機会に、どのような点が問題なのか?どうしたら解決するのか?今一度見つめ直してみませんか?



みんなの家 小規模多機能  
まのしろ  
馬城 諒 一さん

## 1. 現在の業務内容 利用者様の送迎や介助

私が勤めているのは、小規模多機能の施設です。そこでは、利用者様が通いをメインとして利用しつつ、宿泊や訪問にも対応しています。主に、利用者様の送迎やレクリエーション対応、排泄・入浴介助などを行っています。



## 2. 「もっとこうなったら良いのに」と思うこと 若い世代の職員増加

働いているのは40~50代がメインとなっており、20代の方は少ない状況です。今は担い手が充実していますが、今後少なくなっていく不安があります。介護は3K(きつい、汚い、危険)というイメージが強い職業であることに原因があると感じます。

## 3. 解決するための策や案 実際に体験することで イメージの刷新を

介護職は他の職業に比べて、ロボットやAIに仕事を奪われにくい仕事であることをアピールするのが良いと考えています。給与が安いという点も問題視されていますが、国も給料を上げて介護士を増やそうとする動きをしています。需要が高い職業であるため、若いうちに就職しておくのがおすすめです。実際に介護を体験してみるのも良いかと思います。そこで、利用者様の方と話したり、笑顔を見たりするとやりがいを感じられるのではないのでしょうか。また、職員の体の負担を考え、介助者の動きをサポートするマシンの導入は有効かと思えます。「きつい」というイメージを払拭できると思えます。

## 4. 未来を担う職員の皆さんへ 安心を提供できる存在として

今後見込まれる高齢者の増加を考えると、日々の業務に追われ、利用者様と落ち着いたコミュニケーションを取ることができなくなるかもしれません。しかし、それでも利用者様の心の拠り所となるよう、利用者様優先の温かい職員を目指してほしいと思います。

